

殉難續草

完

911.157

Z53<sub>3</sub>

(W)<sub>t</sub>







河本貫以

淺田政朝

田中綏猷

今嘉猷

柴田某

南木義次

堤某

藤原公知卿

兵戶昌明

中原某

稱杜太郎号正菴越後人后豐原邦之助  
文久二年正月十五日於坂下門外討死  
稱儀助常州人本名小田彦治郎  
前日

中山家世臣正六位河内介  
日三年五月二日於薩海喪死  
綏猷家嫡叙任從六位下充馬介号東郊  
前日

水戶會次懋亦門人稱市之助英貞斬而  
於江府幽囚中病死

稱四郎長及藩

文久三年三月廿三日於京師屠腹

稱奎元門三及人

日年五月於日所屠腹

贈從三位宰相中將

日年五月廿日夜橫死

稱弥四郎三及川屋藩大和義奉徒

日年九月廿七日戰死

稱太郎但及高田村莊官銀山徒

日年十月十四日於播及暴殺

安岡正定

鶴田守道

澤田某

宮部增實

林正義

江幡廣光

半田成久

本多素行

横田順宜

松嶋久誠

稱嘉助土及藩前日徒

元治元年二月十八日於京師死刑

稱陶司久苗米藩大和義奉徒

前日

稱實之助南紀野山侍大和一奉之節蒙

幕終於京師入獄中病死

稱島藏肥後藩

元治元年六月六日於京師橫死

稱忠五郎水戶藩

日年六月十六日斬死而國死

稱傳七又定彦日藩

前日

稱致吉久苗米藩

日年七月十九日於京師戰死

稱小三郎膳所脫藩銀山徒

日年日月廿日於日所獄中死刑

稱清兵衛京師書肆号依屋

依幕終入獄中日前

稱剛助長及藩

日年十月十九日割腹



山田憲之  
称又助長洲藩  
前日

再出國分某  
称新太郎筑波山

日杉山某  
称弥一郎

日原某  
称内藏助

武市某  
称半平太主及藩  
慶應元年十一月於本國屠肢

堤忠明  
称治郎三及人  
日辛卯月十六日病死

安藤某  
称李之進水戸藩  
日辛卯月廿五日於本國割肢

河井某  
称惣兵卫姫路藩  
日辛卯月廿六日屠肢

高杉春風  
称晋作号東行長及藩  
日三年四月十日病死

里見甕夫  
称治郎紀及脱藩  
日辛卯月於淺川刃横死

伊東武明  
称甲子太郎后撰津山陵衛士  
日辛卯月十八日於京師横死

服部良章  
称三良丞又武雄元赤穂藩  
前日

藤堂宜虎  
称平助又南部与七郎江戸人  
前日

婦女子之部

藤田氏雪子  
藤田正号幽谷第二女

今益子  
日第四女

菊地卷子  
大橋順藏周道之妻  
野及守都宮歌佐野屋長兵卫女

登機女  
常及高野村住

兒嶋草臣母  
野及守都宮玉屋某妻  
強助草臣卷母



今 光子 日草臣、妻

再出 望 東 尼 筑前藩野村某後室  
号向陵

鶉飼邦廣女 水戸藩鶉飼吉左卫門女

吉村重郷母 土藩寅太郎母

真木保臣女 筑後水天宮長官和泉守女

以上

追加

遊君花扇 横濱、傾城、  
文久三年五月廿三日自今

殉難續草

廣木松之助輝

謝投酒瓢

雖傾倒千瓢、無由扶正氣、不如留精靈  
千載護 皇基、

森山 繁之助

君うらみおとひとのこころ我士の  
たれ人うらみふたせうれし

關 鐵之助遠

冬夜獄中謾吟



托就幽囚還故鄉、姓名有世寧辭狂、五  
更擊拚乾坤寂、頭斷場荒月似霜、

全

時事關心難作眠、換風延月轉凄然、滿  
胸忠憤悲歌夕、憶起文山就義年、

和愆武子被寄韻

朔風凜冽入霜芒、永夜愁心轉暗涼、只  
憑蒼天辨奸正、任他陸地捲波浪、割據  
自古英雄事、苦節從來臣子常、未聽一  
刀兩斷決、外驕鯨鯢內豺狼、

寄柳沃處士荒井負藏東隣之獄

塵世功名爭破情、嗟君志業在平生、寄  
言非是邊庭遠、忍聽寒江孤雁聲、

壬戌元旦各飯村時敏

誘來湖海轉蓬身、翻成家山縲紲人、雪  
白日光看不見、始逢三十九年春、

正月十六日有感

病間索句到斜陽、子隙先窺月出光、起  
踞屈指何感慨、三回圖影夢中行、

北越道中感旧遊而賦



乍憶慨然北顧時、到頭意氣徒堪思、如  
今荒落潛遊者、不識丹心亦向誰、

壬戌二月十八日去安政庚申三年於此則  
當余辭國忘家之辰自去冬就囚再還  
國

變名替形混風塵、欲以君冤問鬼神、去  
國三年勞且苦、花時重作背花人、

記夢

綠酒紅纏何所往、春風三月賽櫻宮、夢  
魂驚覺開支枕、不在京華在獄中、

被縛將歸鄉國即得一絕

仰不愧天寧愧世、丹心如火亦明誰、滿  
山風雪吟憶豁、正是從容就義時、

途中吟

報國丹心尚未灰、半肩行李此重鎧、滿  
懷風月吟遊外、尊攘期他機會未、

有感

辨姦却怪人呼賊、誰識中心浩々如、鬚  
髮不收顏如土、春寒未稿老蘇書、

獄中の詠







おぼの歌を鏡まきよふよふ

孫よもち おをまはるおのちよも

おをまはるおのちよも

白川なる流る今もまはるおのちよも

いぬの ちよも ちよも

さあてハ けくまの ちよも

壬戌の年四月三日のちよも

乃まよひて恨鐘まきよふよふ

まよひてのちよも

ちよも

瑞鶴山の林まきよふよふ

おをまはるおのちよも

あつれと まよひて

正月十五日のちよも

おをまはるおのちよも

ちよも

ちよも

ちよも

あつれと

ちよも



壬戌の孫生云は物并夜文里等の  
人々を弟の跡とす

花とちり雪と清く一おとくも  
まやまうり花まきつらまきり

菊のや近の紅葉れまなくも  
杉のまきいとやかきうんといふ  
下つしかえりふ

人ともつけりうけはまきふ  
まのめくまにあまならんきさ

木村 権右清門

みちふとふは雪のふれまき  
ぬきれたるふもえりんらう  
まきま物さふまきまき  
あけまきまきまきまき

山 寄 信 之 助

東海道の夷館に討入ると  
あつてまきまき

まきまのうらまをまきま  
まきま 山 路 乃 花 を まきま

黒沢五郎保高



たふさくをきてるも 長しき後きりて  
はゆのりたうたなまをむくは

石川金四郎

山名家の歌と申し時七多ふりあ

ものねふか種ふたきさけさハ

さふやう金一ふさくさう那

おまのさねの糸をくさく

たふさくさふさ 徳うおうと

獄廷をさるる

たふさくさふさの糸をくさく

我事りかきぬさるるはく

川本社太郎貫以

偶成

東去西来何所為、逢人只說攘蛮弟、即

今又對江城見、滿目妖氛非旧時、

感慨男兒不思家、悲時心緒乱如麻、風

雲豈莫相逢日、潜匿唯須待斬蛇、

淺田儀助政朝

君をゆりふ矢うけらるの挿弓

さうふあふせの玉さもく那



無題

田中河内介綏猷

天下滔々億兆民誰將良策拂邊塵、  
腕憤激豪談容多是貪生畏死人

時多をわけて

おとくをばたくまきつけハ操さるま

くり井 といふと おりか けつら

不知題

象乃らそとやせんかき

皇此をふをふ人におらるる

✓大君の所をもてれもふ死しそあは

人とは生きたし甲斐ありあつ

多うすあふの辱どもおとをほや

いよのそふ此福しけちちたふ

田中左馬介嘉猷

春夜

春宵寂莫眠難得、風拂花林香露迷、  
深院沉沉人去後、半輪落月此窓西

柴田市之助

偶成



豪傑不論枯興榮、此行豈厭爲因烹請  
看一國衝天氣、必拂陰雲使月明、

南木四郎義次

栗田山より絶命の時よめ

斜久能谷ちちをワケするが 去く山名

多祿のあつとけきをく 来ぬアツク

堤 松左衛門

洛东大江山より舟まはるる 去くけり

時血より去はるる 去

まつるのちばはくくくくくくくくくくく

天はみそはれ 秋 登り 下り

姉小路公知朝臣

いよーい吹かすは 下り 秋を

あつとけきくくくくくくくくくくく

実戸弥四郎昌明

先づもろきもろきもろきもろきもろき

いよーいぬ 秋 下り 朽と急

十津川を討死しけり時

いよーいぬ 秋 下り 朽と急

うしろ 秋 下り 朽と急



安岡嘉助正定

しるし紫ハ空とあふともはゆるとも

まのりはまハ帰みよまよま

中原 太郎

帰しそあひいおきつてもおのふは

まもつたひうーあみーまうの

鶴田陶司守道

辭世

たういのをれをちうーまのうう

よま終れ月をふ多庵うまきり

澤田實之助

都の獄をふあう

まの下おひいううを今ま

あうもはるもきうあがけま

宮部鼎藏増實

加茂 行幸をあうまう

おわけおふふの御まハ子の物

神のむうーおあふまうーあを

林 忠五郎正義

楠公



多分と川身を沈めしもよきか  
うらりわしき人しなげき  
和氣清彦

よつとくきめおのちあつとあつとせ

あつとけハあつとあつとあ

太刀

あしあつとけハあつとあ

あつとあつとあつとあ

題しつ

あつとあつとあつとあ

あつとあつとあつとあ

江幡定彦廣光

あつとあつとあつとあ

あつとあつとあつとあ

あつとあつとあつとあ

あつとあつとあつとあ

あつとあつとあつとあ

あつとあつとあつとあ

あつとあつとあつとあ

あつとあつとあつとあ



半田教吉成久

新夕一夫和一子一心をみうきほ  
多し一此ふふてうきほもく那

幽閑中ふよめ

と一月ハかつてぬものをう甲一も

あふふすうせう方一せつ一けき

本多小三郎素行

あふを路の人ふんせをわうくん山

くめ一ぬ 海舟けももや来ぬる世

横田清兵衛順宣

辞世

君うまねりひーこも水の泡

かくきてんゆくとおももけりやう

松崎剛藏久誠

同

よてうまねりーこものたゆむる

とくちのちいんちをてうとて

山田又助憲之

同

ちまうたハちまもちーあふん



これおたふしものぬれ身と

國領新太郎

まじりてたらのさうせふちりぬるハ

うら海きーこせびりーるん

杉山弥一郎

越のおれきりのあつてりるも

いけのちきこふとらかりやあらん

原内藏介

あつむのとーきほりーらうり

いけのちきこふとらかりやあらん

武市半平太

花仍清香愛人以仁義榮幽囚何可耻

只有赤心明

いけのちきこふとらかりやあらん

あつむのとーきほりーらうり

堤治郎忠明

和人少幸行

欲遣心中萬段愁醉歌顛倒小揚州半

生未遂攘夷志却向章臺繫紫駟

容中途秋







大それたのあつらん 龍の時あつらん

むかしく 聞おひきむ 多かう那

今丁きあき 海軍 海軍あひそむと

おひいふの 海軍あひそむと

河合惣兵衛

つらつ 不死のものとや人ハんき

きふの 不死 後ろに 志を

安藤 奎之進

よの ぬれ 志を 海軍あひそむと

きー 不死 水戸の 志を

高杉晋策 春風

無題

身蒙狂名何足慙 唯然父母老寒庵 拔

山膽刀斬茲劔 今夜客窓夢小捕

落托京城將一月 鴨東花柳日追隨 五

更燈冷酒醒後 回顧前非淚似絲

里見治郎 甕夫

癸亥七月航海赴長作

去郷一葦向西流 南海山陽雲幾州 我

非尋常江上容 烟波渙火更添愁



甲子元日

玉多弦の起しを祈りし祥ゆを

春とともやむひきさうくさなすこ

伊東甲子太郎武明

平門のお搦山ハふふの爲討死せし

今これ魂をよめりてさるるをハ

日あゆみのみちいもさるるはらら山

ぬきもきり。花のさるるはらら

赤らぬ美ふゆきとよめる

芽をくらふくくくくくくくくくくく

えつぎかききり母をいつふせき

大君の御さるるおめりたまはらら旗の

たてふやうきこのうき母のや

荒巻小月をん

かーあともまその月を大君の

御神も狩りけちりしん

さるるの母は御神ふやとやと

おめりて月のうけたてらひーさ

掬海夷人の娘とふをなげきさ

うたらしをさるるのさるるさ



かとりりのもくくそかへるむやと

服部三郎兵衛良章

坂本龍馬の横孔をきくるとさう

✓ふらぬ多し人もあつたをけりて

ちりあのもたねをうらなぬ

藤堂平助全虎

善嘉権の七世をうけつて世に

出るとたうとつて大君のつた

○ 婦女子之部

藤田氏雪子

弥生の心あつて船ハ終浦登るると

きつてよめふ

✓さうはくまのふふふとせ末と

あさふみさつき花のいろか

同 益子

日本武尊は廣あふぬつとて後納

糸と糸 たつハ海の深き 木も

つくとつとふまうせしもうね



大橋順藏妻卷子

弓矢を齎止の時より

くもつ休もくちんけん弓よき

夫よきくワきもくちんけん

唯まのは大城のまふせりふ

まふせりふ

かけまふかーこうきよも倒ー志く我天を

言まふその暇みあのいうまふおま

たふの暇をかきまふまふまふの暇と

まふまふまふまふまふまふまふ

所門世をまふまふー鳥羽の暇

うまふまふまふまふまふまふ

かひまふまふまふまふまふまふ

まふまふまふまふまふまふまふ

まふまふまふまふまふまふまふ

まふまふまふまふまふまふまふ

まふまふまふまふまふまふまふ

所國を補まふまふまふまふまふ

そのまふまふまふまふまふまふ

まふまふまふまふまふまふまふ







昔よりうひなまの女ありや

男ふゆーありや草花のやう

かよふやあまも我もゆくをたたり

おやとこころいおとこめもの

あつさーもたたりひともを女あり

かふおとるこまやかこつあー

別世のねま

かくたつたいあめいあちー

さほろふうきさハワのまがり

誕生の末世かこつありや

草花の病ふかて花もはらへ  
よもつて花もを

村重のうらめしきうらめしき  
をまはれまらあまをけり  
折たきくはるくきある  
あり折たきくはるく  
うらめしきうらめしき  
すめり人のかかき  
はるをけりかき  
くとまはれまらあま











ふのぶらほくすあつまはきくく  
いふおのちもあさふもくつをき  
なみりもたつ大旨のみもせと  
おゆくはうさもくあつはらけと  
ワラせてもまきあつあつはうさの  
よるるなきあつとまきあつあつ

野村望東尼

静  
清もせはあつまもせあつあつ  
あつあつあつあつあつあつあつ

あつあつあつあつあつあつあつ  
あつあつあつあつあつあつあつ  
あつあつあつあつあつあつあつ  
あつあつあつあつあつあつあつ  
あつあつあつあつあつあつあつ  
あつあつあつあつあつあつあつ  
あつあつあつあつあつあつあつ  
あつあつあつあつあつあつあつ

賴飼邦廣女

朝廷の御爲ふ志をたつたる若れ飛  
おこふりあつあつあつあつあつあつ  
あつあつあつあつあつあつあつ  
あつあつあつあつあつあつあつ



うけりさハ何ふたさへむるうけり  
ちかきうー花のきたかえる 号う

吉村重卿ノ冊

重卿系ノ出さーくる時

甲方小急をおけつて海をうくくす  
ねくきさうーと母おあうせよ

真木保臣末女

父のそ途よりらる

あつぎゆをさるふ来りあうものぬり  
花さく世とハたかふあうう那

寧児の才状の奥小

とく女の才死態くハたか

皇女の四指とすハゆ五うあそく  
きく人おあをれとゆとく小男麻の  
く急めうけりハたきさあうーはく

遊君花扇

辞世

家をさるふいさふやまのあき  
婦もあをりあうなびけいハる



明治二十己年六月  
官許

和漢洋書籍賣捌所

京都寺町通四條北入町

文求堂 田中治兵衛



